



ばく通信

No.15



2023. 6月

特定非営利活動法人 発達障害児応援団 NPOばく

ばくを開設して16年目。6月現在までに199人の子ども達の学習支援を行いました。スタッフは16名。スタッフは、ばくで指導するだけでなく、公認心理師 臨床発達心理士 臨床心理士等の資格を生かして巡回相談員やスクールカウンセラーとして働いたり、大学等で教えたりしています。

一方で、発達障害のある子の支援の場所は増えましたが、支援者が指導に悩むことも多いとお聞きしています。ばくは支援者のニーズにこたえるため、お勉強カフェをひらき、蓄積した経験をお伝えしてきました。今年度の活動の一部をご紹介します。ご希望の方はお問い合わせください。

ばくの活動

- 1) 学習支援・・・相談担当と指導担当がペアになって個別の学習支援を行っています。また、発達凸凹のある子（診断名は必要ありません）だけでなく、不登校の子ども達の学習支援も行っています。6月現在、少し指導枠が残っています。
- 2) 出張カフェ・・・「知能検査の結果を支援に生かす」などについて助言します。個別相談でも、数人での座談会形式でも、ニーズに合わせて行います。交通費+相談料（50分5000円）。
- 3) 相談・カウンセリング・知能検査・・・巡回相談や病院等での検査をお勧めしていますが、ばくでという方も多いです。理由は「有料だけど、早く取ってくれるから」「具体的なアドバイスがほしいから」「高校生で検査を取ってくれるところがないから」等です。

スタッフからのメッセージ

毎年、スタッフは1年間を振り返り事例集を作成します。その一部を抜粋・編集して紹介します。

★生徒がかわくなる瞬間（相談&指導担当 A）

担当しはじめた子の“特技”“強味”が発掘できた瞬間に彼・彼女らがとてもかわいく思えてくる。しかし、その“強み”はえてして、その子の問題と表裏一体になっている。たとえば、高い社交性をもつがゆえに、オンラインゲームに人間関係を求めて傾倒する子。豊かに膨らむ想像力がオカルトに向かっていく子。

個性豊かな彼・彼女らに出会ったばかりの頃、指導者は「この子はどういう指導だったらやりたくなる？」と頭を抱える。しかし、「君はそういうやり方で考えを発展させるのが得意なのね!!」とわかってくると、暴走気味だった“強味”が、その子の学びを後押しする力そのものであったり、人生を楽しむ資質の一つになったりする・・・というストーリーが指導者の中に構築されていく。そのとき、社会との軋轢の中でもあきらめずに能力を抱え続けた彼・彼女たちが輝いてみえるようになる。

★相談担当のお楽しみ（相談担当 B）

ばくに通ってくる子どもたちの“好き”は多種多様である。百人一首、ぬり絵、ボードゲーム……。これらはふつう。魚づくし、車づくし、椅子の修理は少しマニアック。窓から見える山をブロッコリーに見立てて話を楽しむ子、指導者の顔が栗山監督に似ている話で飽きもせず毎回盛り上がる子もいる。

4つの部屋の指導担当は、子どもたちの“好き”を実に上手に使う。指導の導入やお楽しみに活用することはもちろん、モチベーションを高めることや、気持ちの立て直しに利用することもある。指導の

中核に位置付け、その子に特化したオリジナル教材を作成し、学びへの取り組みを支えることもある。子どもたちの“好き”をより一層の”パワー“にできるよう、日々効果的な指導が展開されている。相談担当として、”好き“を目の前にした子ども達の笑顔をみるのは、大きな楽しみのひとつである。

★宿題に取り組むために(指導担当 C)

保護者から「家では宿題をやらない」という声をよく聞く。そんな時はばくで、一度やってみることにする。落ち着いた環境で1対1の指導なら集中して取り組めることが多くある。家庭ではつい口を出してしまう保護者の気持ちを理解しつつ、なぜ勉強(宿題)をやる必要があるかを一緒に考えながら、学習に集中して取り組んでいく姿勢を身に付けていくことを手伝っている。このような指導で、中学校・高校受験で合格した子ども達が多くいることは指導者としてうれしいことである。

☆相談担当より: “できない” “わからない”という思い込みが、そばに指導者がいるだけで溶けてきて、落ち着いて考えてみようという“間”がうまれる。つまずきの核になるところを、さらっと言語化してくれるつかい棒のような人がいるから、“わかった”という自信が積み上がっていくように思う。

★卒業生からの手紙(指導担当 D)

今年届いた高校生からの年賀状。「テスト前など、不安でいっぱいになるとばくで毎週先生に愚痴や話を聞いてもらえた小学生の頃を思い出しています。勉強頑張ります。」

彼は6年間ばくに通い、友達とのコミュニケーションが取れないとよく泣いていた。今は立派に成長しプレッシャーに立ち向かっている。ばくの指導の日々を思い出し、心がほっこりしている。

☆相談担当より: 伝えられない気持ちやことばを指導担当に汲み取ってもらったことや、あきらめずに学び続けた経験の記憶が、彼の今の踏ん張りのエネルギーになっているように思う。

★学びに向かう姿勢の変化(指導担当 E)

1年前(小1の頃)は、自分の気持ちが最優先で、苦手な“読み” “書き”に関する課題では、鉛筆や消しゴムを投げ、プリントは破り捨て、机の下に潜り込むことがしばしばあったX君。それが、話を聞けるようになり、待つことができるようになり、そして楽しさを共感できるようになり、今や離席することはほとんどなくなった。

小2の今…読む課題になると、X君はすぐに蛍光ペンを持つ。まず、指導担当の私が文章を読む。X君が間違いやすい文末や助詞をわざと間違えて読む。X君は、目で文字を追いながら、嬉しそうに、間違えたところに印をつけていく。「今度は僕が読む」と言って読み始める。印を付けたところは慎重に読む。そして、「僕の方が上手」という。

☆相談担当より: ばくで指導してきた子ども達の中で X君のような経過をたどる子はとても多い。読み書きの授業が始まる頃から、離席や乱暴などの言動が出現する子ども達。この時の支援・配慮の有無が学習に向かう姿勢を作るターニングポイントになっているように思う。

文字を覚えて、使いこなせるまでの時期、ばくに来る子どもたちの頑張りが崩れそうになる時期に子どもたちの”好き“を材料にして、文字から学ぶ力をつけて、知の世界に飛び立たせていく。スムーズに文字を獲得できなかったからこそ、彼らはばくで、人に助けをもらうこと(援助要請の力)やがんばる力(勤勉性)をつけていくように思う。

静岡県静岡市駿河区大和2丁目6番5号 東京堂ビル305号

電話・FAX: 054-266-5616 (火~金曜日 15時~19時30分)

賛助会費振込先: 郵便口座番号 00810-6-134767 発達障害児応援団NPOばく

(一口1000円、何口でも)

E-mail: baku@orion.ocn.ne.jp

URL: <http://www.npobaku.sakura.ne.jp>